

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600070		
法人名	社会福祉法人ひまわり会		
事業所名	永寿園グループホームひむかてらす	ユニット名	2ユニット
所在地	宮崎県日向市大字富高6957番地の1		
自己評価作成日	平成28年6月12日	評価結果市町村受理日	平成28年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&liyosvoCd=4590600070-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年7月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域ケアステーション永寿園としての理念を昨年作成し、会議時に唱和するようにしている。理念を事務所に貼って、目につくようにしている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのあいさつは意識して行ない、行事にも積極的に参加している。前の公園に保育園児や小学生が遠足に来ているときは、散歩するようにしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンに3名～5名のご利用者が参加している。昨年10月、11月と続けて2回、場所を提供したくさんの方が来られた。カルタ大会を行ない、とても盛り上がった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催している。事例の発表や避難訓練を運営推進委員の消防団部長に指導して頂いたときのスライドをみってもらう。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日向市高齢者あんしん課の担当者に委員として参加してもらっている。昨年は監査もあり、ケアプランについての指導していただいた。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修は毎年行なっている。身体拘束の弊害について事例を通して学びました。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について毎年研修を行ない、外部の研修にも昨年は参加し、職員に復命にて伝達した。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方はいないが、情報を提供していきたい。研修を昨年は行っていないので、今年度は行なっていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の重要事項説明と重度化に伴っての説明を行っている。家族に疑問点や不安なことはいつでも面会時に話してもらうように伝えている。面会時には職員側から様子など報告し、話しやすい雰囲気を作るようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者に日頃から何でも話していただくように声かけを多くし、要望や希望を聞いている。また、皆様と話し合う時に食べたい物や行事など意見を出してもらっている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、園内研修時、職員との面談時に、要望や意見を聞いて上司に伝えるようにしている。働きやすい、生きがいのもてる職場づくりを心がけている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年度初めに目標を立てて、3か月ごとに達成状況を確認している。また、資格取得のため、支援を行っている。休憩を意識して取るようになった。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	永寿園全体の研修年4回、事業所での研修を月1回行い、学びのレポートを提出している。外部の研修にも積極的に参加させてもらっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の研修や介護支援専門員の会に参加し、サービス内容などの情報収集を行い、サービスの質の向上につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく3名の方が入居された。見学時に入居の希望などお聞きし、また、入居されてからは、声かけを多くし、なじみの関係を早く築けるようにし、本人の気持ちを聞くように心がけた。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面会時、契約時にご家族の希望や不安、要望をお聞きし、また、ご利用者が落ち着いて、安心して生活できるように一緒に支援していきたいと説明した。どんなことも連絡するようにしたいことを説明し、ご家族との信頼関係ができるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居され、健康状態が不安定で、食欲低下、精神的な不安などの様子があったが、その方の健康だけに目がいったが、安心する言葉かけで声かけを多くし、好きなことを行っていく中で、徐々になじみの関係もでき、状態が落ち着いて来られた。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ができることは継続して行っていたが、また、出来そうなことを一緒に行いながら、ADLの維持に繋げている。やさしい言葉かけ、同じ目線で話すように心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の行動で、「息子が帰って来ます」と玄関の方へ行かれたり、会話の中でご家族の心配や会いたいことを言われていたので、ケアプランにて面会や外出などを目標にして協力してもらっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や近所の方が面会に来られた時は、また来ていただくように声をかけさせてもらっている。また、お彼岸時に西郷まで墓参りに行き、大変喜ばれていた。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファに座る時はご利用者の関係に配慮しながら、座っていただいている。1月にご利用者3名が入退居されたときは、あるご利用者が新しい方を隣に座らせないようにしていたこともあった。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご利用者に「会いたい」というご利用者の声があり、面会を予定していたが、体調が悪く会うことが出来なかった。特養の方へ入居された方は時々面会に行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや、希望・要望を担当職員を中心にお聞きし、把握に努めている。思いや要望をご家族とも相談しながら叶えられるように支援している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の話をご本人からお聞きしたり、ご家族からお聞きしている。自分の故郷の話をする和不穏な様子が出る兆候があることをご家族より報告があったり、周りが昔いた朝鮮時代の人になることもあるが話をあわせることでうれしそうに話されている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりのできることを職員間で情報共有している。月1回のミーティング時に状況の確認を行ったり、日々の様子を日誌や連絡ノートで共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の思いや要望、希望をお聞きした上でアセスメントを行い、介護計画書を作成し、ミーティングで話し合い、ご本人、ご家族に説明し、同意を得ている。モニタリングは毎月行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録し、ミーティング時に月のまとめとモニタリングを行いながら、介護計画書の見直しに活かしている。いつもと違う様子の時は日誌や連絡ノートに記載し職員に情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他の事業所3か所合同で遠足をおこなった。また、地域のいきいきサロンに数名が参加したり、場所を年2回提供し、行うことができた。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の通学路となっているので、小学生の見送りをを行っている。幼稚園、保育園児との交流会・毎月ボランティアの訪問がある。地元のアコーディオン演奏者の方も年3回ほど来られた。地元の美容院から月1回訪問あって、散髪している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の先生が月1回往診に来られる。また、地元の歯医者さんの受診も増えてきた。主治医の受診はご家族が対応してくれたり、看護職員が対応している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の心身状態のことで何か気づいた時は看護職員に相談している。また、夜の緊急時は連絡を取り指示をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のご利用者の情報を提供している。入院中は病院側より連絡もらったり、ご家族より報告があり、お見舞いに行くと、病院側と相談している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期については説明し、今回、特養の増設に伴い、心身の状態の低下、医療が必要になったご利用者のご家族と相談して、特養の方へ入居となった。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や救急蘇生法、AEDの使用の仕方など定期的研修し、実践につなげるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画(台所火災想定、地震想定、夜間想定など)を立てて、月1回訓練を行っている。3月は地域の消防団部長に避難訓練を見て指導してもらった。避難時の水分を保管したが、避難食は準備できていない。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、やさしい言葉かけを行うようにしている。特に排泄時の声かけや入浴時はプライバシーを損なわないように気をつけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる言葉かけを職員が意識して行い、ご利用者が選んでいただくようにしている。しかし、あるご利用者は反対に不安になって、過呼吸がみられることもあり、安心する言葉かけの必要な人もいることを学んだ。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状態によって、落ち着かない様子ときは、散歩やドライブに誘い、気分転換をはかるようにしている。ご本人が外出したいと言われた時、無理な時はいける日を約束して行うようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそって、美容室に外出したり、ご家族となじみの美容室へ外出している。起床時、洗面整容に気をつけている。お化粧の声かけも起床時声かている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食材をお出しするようにしている。ビールが飲みたいとの要望もあり、ノンアルコールビールを週2回ほどコップ1杯、3名の方が飲まれている。個々に応じて、小鉢の配膳、テーブル拭き、食器洗い、お盆拭きなど行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は全員毎食後チェックし、水分量は6名の方が1000mlを目標にチェックしている。 水分についてはポカリゼリーを作り、提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後声をかけて行っている。一人でできる方も、義歯の洗いは不十分な時があり、後で洗いなおしている。また、歯ブラシが不十分な方は、ご家族より介助の希望もあり、声かけて嫌がらない時は介助している。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	12月に入居された方は紙パンツを使用していたが、状態を観察し、布パンツに小さいパット使用に替えた。また、夜間の排泄の様子から、尿パット、ナイトパットの使用方法を検討した。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取したり、運動したりと便秘の予防を行っている。2月に入居された方は毎回摘便していたとのことだったが、ドクターと相談し、緩下剤で排便がみられるようになり、ご本人がとても喜ばれていた。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日置きに入浴を行なっているが、その日の状態で拒否されたら、様子見ながら声かけを工夫して入られる時もある。入浴時はゆっくり話す時間として大切にしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールで過ごしてもらっている。状態に応じて昼寝も行なっている。また、夕食後、居室にてたんすや押し入れの整理など1時間ほど行なってからでないとな落ち着かない様子があり、その後に休まれる方もいる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員中心に、変更があった場合は勤務している職員に直接、そして連絡ノートに記載し、情報を共有している。ミーティング時に薬の内容や状態の報告を行なっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物たたみ、お盆拭きなど個々に応じて役割が決まってきたように思える。また、ビールがたまに飲みたいとの訴えがあり、ご家族と相談してノンアルコールビールを週2回ほど飲まれている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	晴れた日、歩行訓練兼ねて周辺の散歩を行っている。学校の通学時の立ち番は老人クラブの方と一緒にいたりしている。また、日曜日はドライブの日にして馴染みの場所や季節の花を見に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理しているご利用者はいないが、財布に少しのお金をご家族が入れて持っている方はいるが、ほとんど使っていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月1枚色塗りしたはがきに、一言書いて出すようにしている。県外のご家族が、面会時に「私からも書くようにします」とうれしい言葉をいただいた。県外のご利用者に月1回電話するようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度については、目でわかるように、壁に貼るようにした。また、季節が味わえるように花を飾ったり、季節の感じる塗り絵を行った時は各居室前に貼るようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の入退居があったことで、隣に違う方が座ると不穏になることもあり、職員が座る位置を考えながら行う中で、受け入れてくれるようになる。気の合う方と一緒に座っていることが増えてきた。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が演歌が好きで、ご家族がカセットをもってきて寝る前に聞いたりしている。また、ご家族との写真を飾り、話の輪が広がっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、居室がわからず他の方の居室へ入ろうとすることがあったため、居室やトイレの前に大きく名前を書いて貼っている。			